

日本語教育における「見える」「見られる」の 提示方法に関する一提案

森 敦子

1 はじめに

日本語の文法規則について日本語非母語話者（以下、非母語話者と表記）にわかりやすく提示するためには、まず、日本語母語話者（以下、母語話者と表記）が無意識に理解している部分を意識化しなければならない。そのためには、日本語を詳細に分析し、体系化する必要がある。これは、日本語学のこれまでの研究成果を整理することで実現する。しかしながら、日本語学における研究成果を、そのままの形で非母語話者対象の日本語教育に応用するのは、適切であるとは言えない。何故なら、日本語学と日本語教育とは、同じ日本語という言語を扱っているものの、それぞれ目指しているものが異なるからである。

庵（2011a）の以下の記述が、日本語学と日本語教育の方向性の違いを端的に表している。なお、ここで言う「日本語記述文法」とは従来の日本語学のことであり、「教育文法」とは日本語教育に直接役立つ文法（記述）を意味しているものと思われる。

日本語記述文法（日本語学）は基本的に理解レベルの文法である。なぜなら、上で述べたように⁽¹⁾、日本語記述文法では母語話者がもつ文法能力が前提とされているからである。あるいは、日本語記述文法では母語話者がもつ文法能力が前提とされるため、理解レベルと産出レベルの区別が問題にならないと言ってもよいかもしれない。

一方、教育文法が対象とするのはそうした文法能力をもたない（少なくともそれを持つことを前提とはできない）学習者である。そのため、理解はできていても産出できないということは十分にありうる。その意味で、理解レベルと産出レベルの区別は必要である。また、学習者の学習レベルに合わせて理解レベルと産出レベルを区別するということも必要である。（庵（2011a:5-6））

つまり、日本語学が、「前提とされる文法能力」（いわゆる母語直観）をもつ母語話者を対象にしているのに対し、日本語教育は、日本語に対する母語直観のない非母語話者を対象にしているのである。このことが、日本語学の研究成果をそのまま日本語教育に応用することができない所以である。日本語学における研究成果（文法記述）は、母語話者である日本語教師自身が文法に関する理解を深めるために利用するには有用である。しかし、

日本語教育の対象である非母語話者にとって、直接役に立つものではないのである。日本語学の研究成果を、いかにして非母語話者に役立つものに変えていくか。それが、日本語教育の課題の一つであると言えるだろう。

本稿ではまず、可能の意味を表す「見える」「見られる」の日本語教育における扱いについて概観する。そして、「見える」「(可能形の)見られる」(以下、「見られる」と表記)に関する日本語学的知見を日本語教育に応用する一案として、「見える」「見られる」の使い分けに関する規則を明示的に示した、「見える」「見られる」の使い分けフローチャート」を提示する。

なお、「見える」「見られる」と語根を同じくする動詞「見る」には様々な意味・用法があるが、本稿では「視覚で対象物をとらえる」という意味の「見る」に限定して考察を行う。また、可能以外の意味で用いられる「見られる」(受け身、敬語など)については、今後の課題とし、本稿では扱わないこととする。

2 日本語教育における「見える」「見られる」の扱い

非母語話者を対象にした日本語教育では、「見える」と「見られる」はどちらも初級の文法項目として扱われている。初級の段階では、複雑な文法体系より基本的な文型を習得することのほうが重要であり、また、直接法では使用できる文型や語彙にも限りがあるため、詳細な文法解説は行わないのが一般的である²⁾。「見える」と「見られる」に関しても、典型的な例を提示するにとどまり、使い分けについてはあまり詳しく触れられていないのが現状である。代表的な日本語初級教材『みんなの日本語初級Ⅱ』の教師用指導書である『みんなの日本語初級Ⅱ教え方の手引き』には、「見える」と「見られる」について以下のように記述されている。

<留意点> 「見える」「聞こえる」と「見られる」「聞ける」の違いについて質問が出たら、前者は話し手が何もしなくても、対象が自然と目や耳に入ってくる状態にあること、後者は時間、労力、手段などを使って何かを見たり、聞いたりできることを例を挙げて説明する。

例： 暗いですから、何も見えません。

毎日忙しいですから、テレビが見られません。

静かですから、隣のうちから声が聞こえます。

テープレコーダーがあったら、このテープが聞けます。

(『みんなの日本語初級Ⅱ教え方の手引き』(スリーエーネットワーク編 (2001:31)))

特に意識せず視界に入ってくるものには「見える」、意志を持って見ようとするものに

は「見られる」を使うという説明である。日本語教育で使用されている文法解説書『初級の日本語文法と教え方のポイント』（市川（2005））においても、ほぼ同様の説明がなされている。初めて可能形を学ぶ初級の学習者向けの教材であることを考慮に入れると、妥当な解説であろう。しかし、「見える」「見られる」の意味・用法は一つだけではなく、多岐にわたっている。そのため、日本語のレベルが中級、上級と上がるにしたがって、上記の記述では説明がつかないものも出てくる。

- (1)（望遠鏡で富士山を探していて）あ、富士山、見えた！！（作例）
- (2) 最近はどこのカンパスでも留学生の姿が見られる。（山内・清水（2001:114））

(1) は富士山を目の前にしての発言であり、下岡（2005）の言う「眼前性⁽³⁾」があるため、可能性の有無を表す「見られる」ではなく、「自発」の「見える」を使う。また、(2) は、「視野内にあるものが自然と目に入る」という自発の条件⁽⁴⁾（山内・清水（2001:109））を満たしていないため、「見える」ではなく「見られる」を使う。しかし、前述の『みんなの日本語初級Ⅱ』や『初級日本語文法と教え方のポイント』のような説明で、非母語話者が、(1) (2) のような文を正しく使えるようになるだろうか。(1) は発話者に富士山を見るという明らかな意志があるため「見られる」を使用し、(2) は特に意識していなくても視野に入ってくるものなので「見える」を使用すると解釈する非母語話者がいても不思議ではない。

以下のように、意志性の有無だけでなく眼前性の有無についても述べている文法解説書もある。

【見える・聞こえる（自発）】

自発は「自然とそうなる」という意味を持ち、目の前に現れた出来事をそのまま伝える場合などに使います。この場合可能形は使えません。

<4>あ、富士山が {○見える／×見られる}。

<5>おや、虫の音が {○聞こえる／聞ける}。もう秋だなあ。

テレビ番組や試合・演奏などに意識的に注意を向ける場合には、可能形を用い、自発形は使えません。

<6>電車で間に合えば、9時のドラマが {×見える／○見られる}。

<7>やっとコンサートのチケットを手に入れた。これであの歌手の歌が {×聞こえる／○聞ける}。

<8>このボタンで選べば、好きな曲が {×聞こえます／○聞けます}。

次のような場合、意識的に注意を向ける意味の他、「そのような状況になれば、そこでは自然と～」という意味にもとれますので、基本的には両方使うことができます。

<9>東京タワーに登れば、富士山が {○見える／○見られる}。

(『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(庵他 (2000:84)))

目の前に現れた出来事をそのまま伝える場合には「見える」を使うと明記されており、(1) のような例には対応していると言える。しかしここでも、非母語話者が (2) の例を正しく判断できるような記述は見られない。

『新版日本語教育事典』(日本語教育学会編 (2005)) の <2-M 教育のための文法分析> の「見える・聞こえる」の項では、次のように解説されている。

■見える・聞こえる

可能と自発の両方の意味をもつ動詞で、学習の困難点は、①可能形「見られる・聞ける」との違い、②格助詞「に・から」にある。

○可能形との違い——「見える」「聞こえる」は自発の意味を担っているので、主体の意志の有無と関係なく、単に対象のほうから視覚や聴覚に入ってくる、あるいは入ってこないことを表す (用例<1><2>)。可能かどうかの原因が主体側になく、対象の側にあるとする言い方である。一方、原因が主体の側にある場合は、可能形を使う (用例<4>)。また、原因が主体以外にある場合であっても、「見る、聞く」という行為が主体の意志と関係がある場合には、可能形を使うのが基本である (用法<3>)。

<1>「もしもし聞こえますか。」

「すみません、よく聞こえません。もう一度お願いします。」

<2>福岡では韓国のラジオが聞こえるんです。

<3>福岡では韓国のラジオが聞けるんです。

<4>私は臆病なのでホラー映画は見られません。

(『新版日本語教育事典』(日本語教育学会編 (2005:204)))

可能かどうかの原因が主体にあるか否かが判断の基準として示されている。しかし、(1) (2) どちらの例をとってみても、可能かどうかの原因が主体にあるか否か、容易には判断がつかないのではないだろうか。(1) は、「主体が視覚能力を有しており、望遠鏡を使って遠くを見て探して当てたからこそ富士山を見ることができた」と考えれば、可能かどうかの原因は主体の側にあるとも言えるだろう。逆に (2) は「留学生を目にするかどうかは留学生がいるか否かによって決まるので、可能かどうかの原因は対象側にある」とも考えられる。他にも、以下の (3) ~ (5) のように、既存の文法解説書の記述だけでは説明しきれない例は多い。

(3) いかのすみが入っているすみ袋は、内臓を取り出すとすぐに見えるので… (略)

(BCCWJ コア: PM51_00338)

(4) 志津は動かなかったが、表情が平七郎の次の言葉を待っているように見えた。

(BCCWJ コア: PB49_00005)

(5) みんなが見えるような大きな字で書く。(BCCWJ コア: PB43_00001)

日本語に対する母語直観をもつ母語話者であれば、これまで見てきた文法記述によって、「見える」「見られる」の違いを理解することができるかもしれない。しかし、母語話者が無意識にできている「見える」「見られる」の使い分けを、多くの非母語話者は意識的に習得していかなければならないのである。母語話者を対象にした文法記述では、カバーしきれない部分があるのは当然であろう。実際、「見える」「見られる」は初級の文法項目であるにもかかわらず、日本語上級レベルの非母語話者においても誤用が多い表現なのである。「見える」「見られる」の使い分けに関する規則を、日本語に対する母語直観のない非母語話者の立場に立って整理し直す必要があるだろう。

3 日本語教育への応用

「見える」「見られる」に関する先行研究は数多く存在し、「見える」「見られる」の意味・用法についても詳細な記述がなされている。しかしながら、それらの研究成果がそのままの形で日本語教育に応用できるわけではない。なぜなら、用法を詳細に分析し体系化するという行為は、日本語学的試みだからである。

前述したとおり、日本語学と日本語教育は、どちらも日本語という言語を対象にしているものの、その目的は異なる。庵 (2011b) が述べているとおり、日本語記述文法 (日本語学) は基本的に理解を目的とした文法であり、日本語教育文法は産出を目的とした文法なのである。

日本語記述文法は基本的に理解レベルの文法である。理解レベルということは規則のカバー率ということから言えば、「(規則のカバー率) 100 %を目指す文法」ということである。こうした文法では「体系」や「隙間のない記述」が重視される。(中略)

しかし、一般の非母語話者を対象に、産出レベルの記述を目指すとなると、こうした記述のあり方は通用しない。この場合の規則は学習者にとって操作可能なものがある必要がある。つまり「(規則のカバー率) 100 %を目指さない文法」が必要となってくるのである。(庵 (2011b:81))

庵 (2011b) は、上記の考え方にしがたい、「は」と「が」の使い分けに関する、産出を目的としたフローチャートを作成している。その際、有標・無標⁽⁵⁾という観点を導入する

ことが有効であると述べている。ただし、有標・無標という観点からの文法記述は、規則のカバー率 100 %を目指すものではなく、例外が存在するため、規則のカバー率をコーパスなどで検証する必要があるとしている。本稿では、庵（2011b）を参考に、日本語学の成果を日本語教育に応用する一つの案として、「見える」「見られる」の使い分けに関するフローチャートを提案したい。

3. 1 「見える」「見られる」の用法の分類

フローチャートを作成するにあたって、以下の分類を基準にした。森（2013）では、以下の 9 用法に「風景描写」及び「判断を表すモダリティ表現」を加えた 11 の用法に分類しているが、「風景描写」は用法②または③、「判断を表すモダリティ表現」は用法④に統合した⁽⁶⁾。

用法① 能力可能：「見える」を使用

視覚能力の有無、視力の良し悪しなど、対象物を視覚でとらえる能力を有しているかどうかを問題にする場合

(6) (視力検査で) この字が見えますか。(山内・清水 (2001:107))

用法② 自発 1 典型的な自発：「見える」を使用

眼前性あり／特に可能の意味はない

(7) ほら、あそこに、鹿の赤ちゃんが見えるよ！かわいいね。(作例)

用法③ 自発 2 特筆すべきもの：「見える」を使用

特筆すべきものが目に飛び込んでくる（目につく）場合／何かが視野内に飛び込んでくる（出現・発見）場合／眼前性はなくとも可

(8) 必要なら、蛍光管が直接見える器具を避けて… (略) (BCCWJ コア: OC12_02182)

用法④ 自発 3 見え方を問題にするもの：「見える」を使用

既に視覚でとらえているものが、どのように目に映るのかを問題にする場合／「きれいに見える」などの外見、「はっきり見える」などの程度、「彼はうそをついているように見える」などの判断・評価など

(9) 今日の彼女は、いつもよりきれいに見える。(山内・清水 (2001:111))

(10) 星がはっきりと見えるかどうかで、大気汚染のバロメーターになる。(BCCWJ コア: PN2g_00004)

(11) 彼は、あまり行きたくなさそうに見える。(山内・清水 (2001:111))

用法⑤ 状況可能 1：「見える」を使用

状況可能の中で、自発の条件を満たし自発と解釈しうるもの／可能の意味を含む

(12) コピーの字が薄くて見えない。(山内・清水 (2001:112))

用法⑥ 状況可能2:「見える」「見られる」どちらも使用可

状況可能の中で、「自発の条件を満たす」「自発の条件を満たさない」どちらも解釈しうるもの

(13) あの山の山頂に登れば、摩周湖の全景が見える／見られる。

(山内・清水 (2001:113))

用法⑦ 状況可能3:「見られる」を使用

状況可能の中で、「自然に目に飛び込んで来る」という自発の条件を満たさないもの／鑑賞・評価など、精神活動を伴うもの／「見る」という動作が実現する可能性について述べるもの

(14) 18時の電車に乗れば、私は19時からの『忠臣蔵』が見られる。(下岡 (2005:5))

用法⑧ 状況可能4:「見られる」を使用

状況可能の中で、「視野内のものが」という自発の条件を満たさないもの／「存在する」という意味で用いられることが多い

(15) 南の島々では1年中色とりどりの花が見られる。(山内・清水 (2001:114))

用法⑨ 心情可能:「見られる」を使用

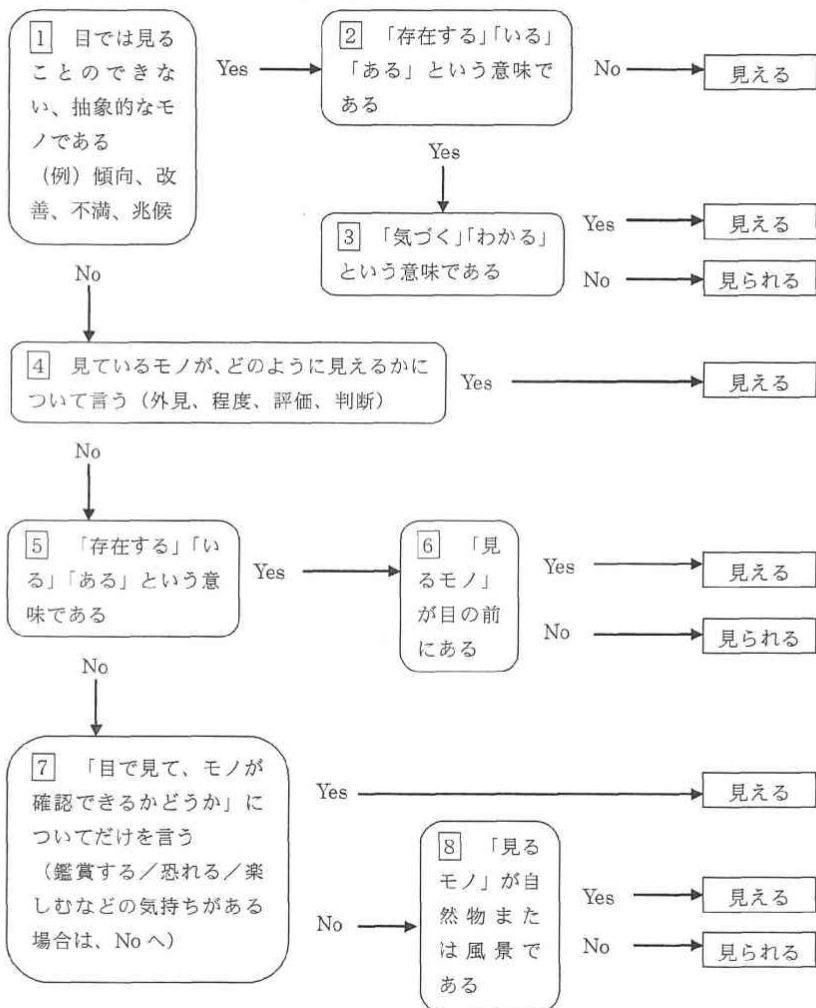
心理的側面に着目したもの

(16) あいつの顔は、とても見られたもんじやない。(山内・清水 (2001:113))

3. 2 「見える」「見られる」使い分けフローチャート

3. 1で示した用法の分類をふまえて、「見える」「見られる」の使い分けに関するフローチャートを作成した（図1）。

＜図1＞「見える」「見られる」使い分けフローチャート



まず、見る対象が具体物の場合と抽象物の場合とでは、「見える」「見られる」のとらえ方が異なるため、最初に抽象物かどうかを問う項目を設けた〔1〕。抽象物の場合に用いられるのは、用法②（「見える」を使用）か用法⑧（「見られる」を使用）である。用法②は本来「そこにあるモノが自然と目に入る」という意味の自発表現であるが、抽象物に用いられた場合には、「抽象的事象に気づく／抽象的事象が明らかになる」という意味になる（(17)）。一方、用法⑧は、抽象物に用いられた場合、「抽象的事象が存在する」という意味を表す（(18)）。この場合の「見られる」は（18）'のように、「ある」という言葉に置き換えることが可能である。

（17）業界の変化は商品に注目すれば見えてくる（BCCWJ コア：PN4g_00005）

（18）この膜は、ダニやウドン粉病、菌核病にも効果が見られました。（BCCWJ コア：PM2I_00167）

（18）'この膜は、ダニやウドン粉病、菌核病にも効果がありました。

ただし、用法②の中にも「ある」に置き換えられる例がある（(19)（19）'）。

（19）もしそんな兆候が見えたときは、市民が声を上げ我々が預けた権力を返して貰う。
（BCCWJ コア：OY06_00060）

（19）'もしそんな兆候があったときは、市民が声を上げ我々が預けた権力を返して貰う。

つまり、抽象物に関して、用法②と用法⑧を正しく使い分けるためには、（18）と（19）を識別できるようにしなければならない。そこで、まず項目〔2〕で（17）を排除し、さらに項目〔3〕で（18）と（19）を識別できるようにした。

次に、具体物について考えたい。コーパスにおいては、「見える」と「見られる」では、圧倒的に「見える」を使った表現が多い⁽⁷⁾。「見られる」を使う場面さえ限定できれば、残りは全て「見える」を使うとして（産出レベルにおいては）問題ないだろう。つまり、「見られる」を使う用法⑦⑧⑨を識別できるような項目を設定すればいいと言える。

用法⑨はコーパスにおける出現確率が極めて低く⁽⁸⁾、非母語話者にとって重要な用法であるとは考えにくいので、ここでは考慮に入れないこととし、用法⑦の「鑑賞・評価など精神活動を伴うもの」と用法⑧の「存在するという意味を表すもの」の2点に焦点を絞る。

まず、用法⑧について考えたい。

（20）青アザのなかで皆さんが一番良くて存知なものは、乳幼児のお尻に見られる蒙古斑でしょう。（BCCWJ コア：PB54_00015）

（20）'青アザのなかで皆さんが一番良くて存知なものは、乳幼児のお尻にある蒙古斑で

しょう。

(20)は用法⑧であり、抽象物の場合と同様、(20)'のように「見られる」を「ある」という言葉で言い換えることが可能である。一方、(21)は用法②（眼前性のある典型的な自発）であるが、こちらも(21)'のように「見える」を「ある」という言葉で置き換えることができる。

(21)「あの小山の麓に見えるのが倭館でございますよ」喜三郎が指さした。(BCCWJ コア: PB39_00013)

(21)'「あの小山の麓にあるのが倭館でございますよ」喜三郎が指差した。

つまり、具体物の場合においても、用法②と用法⑧を正しく使い分けるためには、「存在する」という意味を表すもの」という項目だけでは不十分だと言える。用法②は眼前性のある自発表現である。そこで、眼前性のある自発表現か否かを判断する下位項目⑥を設け、用法②（(21)）と用法⑧（(20)）を識別できるようにした。

次に、用法⑦について考えたい。

(22) ゲームの、機械でも、DVDが見れる、らしいですね。(名大会話 C:data023)

(23) 「乱れ髪」全盛の今、きちんとロールで巻いたようなヘアスタイルが新鮮に見える。(BCCWJ コア: PM21_00306)

(22)は「見る」という行為に「鑑賞する」という意味が含まれており、用法⑦（「見られる」を使用）の典型的な例である。一方、(23)は用法④（見え方を問題にするもの／「見える」を使用）であるが、「きちんとロールで巻いたようなヘアスタイル」は鑑賞・評価の対象ととらえることもできる。つまり、「鑑賞・評価などの精神活動を伴うもの」という定義だけでは、用法④と用法⑦を正確に使い分けることはできないと言える。用法⑦を正しく産出するためには、あらかじめ用法④を識別しておく必要がある。そこで、「見ているモノが、どのように見えるかについて言う」という項目④を設け、用法④をあらかじめ排除できるようにした。

また、「見るモノ」が自然物（海や山等）や風景（窓から眺める花火や東京タワー等）の場合には、「鑑賞の対象」ととらえられる一方で、自発の条件も満たしていると考えられるため、「見える」「見られる」のどちらも使用可能である。しかし、「見える」と「見られる」が重なる部分（用法⑥）に関して、実際の言語使用においては「見える」を使用する傾向がある⁹⁾。そこで、項目⑦の後に「見るモノ」が自然物または風景である」という下位項目⑧を設け、実際の言語使用に即したフローチャートになるよう配慮した。

また、用法⑧の中にも、(24)のように「見る対象物が自然物もしくは風景」の例がある。

(24)「新明館」の前を流れる溪流には、夏の時期、螢の姿が見られることもある。(BCCWJ コア:PM11_00207)

そこで、用法⑧を識別するための項目⑤を、用法⑦を識別するための項目⑦より先に設定し、(24)のような例にも対応できるようにした。

次に、現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) のコアデータ及び名大会話コーパスにおける「見える」「見られる」の用例が、図1のフローチャートを用いて産出可能かどうか検証した。コーパスにおけるフローチャートのカバー率は、表1のとおりである。

表1 母語話者コーパスにおけるフローチャートのカバー率

	フローチャートのカバー率		
	「見える」	「見られる」	全体
①BCCWJコア	97.27%	90.72%	95.47%
②名大会話C	96.64%	93.94%	96.15%
①+②	97.04%	91.54%	95.70%

BCCWJ コアの「見られる」のカバー率が90.72%とやや低めであり、書き言葉における「見られる」のカバー率にやや不安が残るものの、コーパス全体のカバー率は95.70%あり、まずまずの結果となった。母語話者コーパスには非母語話者が習得する必要性の低い表現も含まれていること、特に BCCWJ コアは母語話者による書き言葉コーパスであり、非母語話者にとって重要度の低い表現も多く含まれていることなどを考えると、95.70%のカバー率は低くない数値だと言えるだろう。

「見える」「見られる」の様々な用法を一通り学び理解している日本語上級レベルの非母語話者であれば、図1のフローチャートを活用することで、既習の知識を整理し直したり、自ら産出した文の正誤を検討したりできるものと思われる。一方、中級以下レベルの非母語話者にとっては、自らの力でフローチャートを使いこなすのは容易ではないだろう。しかし、教師側がフローチャートを活用することで、より効率の良い指導が行えるようになるのではないだろうか。中級以下レベルの非母語話者の場合、誤用について、自分自身でも「何がわからないのか」がわかっていないことが多い。だからといって、教師が誤用を訂正する際に、「見える」「見られる」の違いを一から全て説明するというのは、無駄が多く、現実的ではない。教師は、非母語話者の発話を聞いて（もしくは作文を読んで）、誤用の要因を瞬時に判断し、対応しなければならない。教師側がフローチャートを活用する

ことで、「どの項目についての理解が不足しているのか」が明確になり、効率の良い適切な指導が行えるようになるのではないかと考えている。

残念ながら、本稿で提示したフローチャートは、このままの形で非母語話者に提示できるレベルには至っていない。非母語話者が自分自身で使いこなせるフローチャートになるよう、今後改良を重ねていきたい。

参考

- 庵功雄（2011a）『日本語記述文法と日本語教育文法』森篤嗣・庵功雄編『日本語教育文法のための多様なアプローチ』1-12、ひつじ書房
- 庵功雄（2011b）『「100%を目指さない文法」の重要性』森篤嗣・庵功雄編『日本語教育文法のための多様なアプローチ』79-94、ひつじ書房
- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 飯田透（1997）『「見える」「見られる」再考』『東京大学留学生センター紀要』7:43-65、東京大学留学生センター
- 市川保子（2005）『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク
- 下岡邦子（2005）『可能形態「見られる」と「見える」に関する一考察』『国語学論集』50:158-138、龍谷大学国文学会
- スリーエーネットワーク編（2001）『みんなの日本語初級Ⅱ教え方の手引き』スリーエーネットワーク
- 日本語教育学会編（2005）『新版日本語教育事典』大修館書店
- 森敦子（2013）『「見える」を好む日本語学習者—可能を表す「見える」と「見られる」の使い分けに関するアンケート調査からわかること—』『国文研究と教育』36:89-100、奈良教育大学国文学会
- 森篤嗣・庵功雄編（2011）『日本語教育文法のための多様なアプローチ』ひつじ書房
- 山内博之・清水孝司（2001）『「～が見える」「～が見られる」』『日本文化学報』10: 107-119、韓国日本文化学会

使用したコーパス

現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）中納言

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/search>

名大会話コーパス

<https://dbms.ninjal.ac.jp/nuc/index.php>

日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベースオンライン版

<http://jpforlife.jp/cert/taiyakudb/sakubuns/>

日本語学習者会話データベース

<https://dbms.ninjal.ac.jp/kaiwa/>

注

- (1) 庵(2011:2)は、「日本語学は母語話者の文法知識（文法能力(grammatical competence)）の釈明を目指すものとされている」と述べている。
- (2) 日本国内の多くの日本語教育機関において、日本語を日本語だけで教える、いわゆる「直接法」が採用されている。入門の段階から日本語のみで授業を行うことで、日本語における聴解力やコミュニケーション能力の向上がはかれるというメリットがある一方で、初級の段階では複雑な概念や文法の説明は困難であるという問題点もある。
- (3) 下岡（2005）は、「見える」「見られる」の最大の相違点は「眼前性（もしくは現場性）の有無」であるとしている。本稿では、「眼前性」を「見る対象となるモノが、発話の場・視点においてまさに目の前にある状態」という意味に解釈し、用いている。
- (4) 山内・清水（2001）は自発「見える」の意味を「視野内にあるものが自然と目に入る」と定義し、状況可能のうち自発の意味に解釈しうるもの（＝自発の条件を満たすもの）には「見える」、自発の意味に解釈することができないもの（＝自発の条件を満たさないもの）には「見られる」を使うとしている。
- (5) 庵（2011:81-82）では、有標・無標という考え方について「2つの類似形式にある言語形式A、Bがあるとき、文脈Cにおいて、言語環境Xでは形式Bのみが扱われ、その他の言語環境では形式Aが使われるとき、AとBのうち、Aは無標の形式であり、Bは有標の形式である。（中略）このように定義すると、有標の環境のみを指定すればいいことになるので、学習者の負担が軽減される」と述べている。
- (6) 分類（9分類）の詳細については、森（2014）「可能を表す「見える」「見られる」の用法別使用傾向－コーパスに見る母語話者と非母語話者の使用の異なり－」『日本語／日本語教育研究』第5号 ココ出版（2014年5月発行予定）を参照されたい。
- (7) 「見える」「見られる」全体の中で「見える」が占める割合は、現代書き言葉均衡コーパス（コアダータのみ）で72.52%、名大会話コーパスで81.87%である。
- (8) 用法⑨は、調査した範囲においては肯定の用例はなかった。BCCWJで否定の形で1件、名大会話コーパスでは否定の形で2件のみ確認された。
- (9) 調査した母語話者コーパス（BCCWJのコアダータ及び名大会話コーパス）において、用法⑥にはすべて「見える」が使用されており、「見られる」が使用されているものは1件もなかった。

（本学大学院生）